

B—81 家庭用手編機による毛糸製品の変形，収縮について
洗濯後の脱水，乾燥方法の差違の影響

県立新潟女子短大 多田 千代
○平沢 和子

1. 編物の編成直後の目数と段数の比は編む過程で受けた変形の回復のために次第に変化する。この比の変化は自然放置や蒸気仕上げによるよりも，洗濯をする場合が最も大きいことをすでに報告した。そこで今回は洗濯操作を更に分析してこの変形ならびに収縮が洗濯後の脱水方法および乾燥方法のいずれにより多く影響されているかを見ようとした。

2. 家庭用手編機（B社製品，目盛5）を用い，純毛中細毛糸で子供用セーター9枚を作った。このうち4枚については満3歳児4名が3カ月着用し，その間洗濯を5回行なった。残り4枚の着用しないセーターもこの時同時に同方法で洗濯した（中性洗剤，0.3%，30°C，つかみ洗い，2度洗い）。干し方は遠心脱水，ローラー脱水，湿りとり布による脱水の3段階，これを干す前に型紙を用いて洗濯前の大きさまで引っぱる場合と引っぱらずにしわだけ軽くおさえておくものとの2段階に分け，型紙にのせたまま日かげで自然乾燥した。

3 変形については大差がなく、前回にくらべいずれも少ない。収縮は一般に直線的に増加したが、増加割合は湿りとり布の場合が最も少ない。また引っぱった場合は引っぱらない場合より収縮は少なく、着用と不着用では大差はなかった。